

やぶかみ ちゅうおう ほぜんかい
藪神中央保全会(新潟県魚沼市)

＜共同活動を通じて農村協働力が深化・地域ぐるみで地域農業を下支え＞

協定面積:323.6ha
構成員:農業者241人、参加団体27

本地区は山間農業地域に位置し、過疎・高齢化により担い手不足が深刻化する中、共同活動を通じて強化された地域のつながりを土台に、地域農業の将来に向けた取組の合意形成が図られ、担い手農家が安心して農業に取り組めるよう地域ぐるみで支援する体制が作られている。

代表的な取り組みとして、非農家による「草刈り隊」が保全活動に参画し、地域住民が交流する機会になると共に、農地集積に伴い増加した担い手の負担を軽減している。

さらに、ほ場整備を契機に新たにふきのとう等の園芸品目に挑戦する担い手農家を支援するため、中家・池平の2集落の非農家が「農業応援団」を発足。園芸の農繁期の作業を手伝い、地域農業の発展を下支えすると共に、集落を越えた農村協働力の深化が図られている。



【非農家による草刈り隊】



【農業応援団発足式】

よなみ ちく かんきょう ほぜん すいしん いいんかい
江波地区環境保全推進委員会(富山県砺波市)

＜農業者だけでなく地域の団体と自然と共生を目指す保全活動＞

協定面積:114.1ha
構成員:農業者49人、非農業者39人

本地区は、砺波市北西部に位置する農村地域であり、本制度の創設時から自然と地域の共生を目指して、農業者と地域住民とが一丸となって保全活動に取り組んでいる。

代表的な取り組みの一つとして、児童クラブ(児童と保護者)が農業用水を活用したビオトープへ水生植物を植栽している。この活動を通じ、農業用水の大切さや自然環境保全への意識が深まるとともに、地域内の景観形成が図られている。

また、水路からの溢水被害を防止するため、令和2年度から「田んぼダム」に取り組み、年2回発行の広報誌等を利用して、地域住民へ田んぼダムの取り組みを周知している。



【児童クラブによる水生植物植栽】



【水田貯留板設置(田んぼダム)】

つばくら まち かんきょう ほぜんかい
津波倉町環境保全会(石川県小松市)

＜地域住民とともに耕作放棄地を県内最大級のコスモス畑に＞

協定面積:24ha
構成員: 農業者7人、非農業者2人、参加団体3

本地区は、国道8号線粟津IC付近の緑豊かな地域で、長年課題であった耕作放棄地の解消と景観向上のために、令和元年度に組織を立ち上げ、地域住民と一体となって保全活動に取り組んでいる。

代表的な取り組みとして、粟津温泉へ向かう玄関口として、景観を向上させたいという思いから、農業者だけでなく町内会や婦人会など地域住民と連携し、5か年計画でコスモス畑をつくることにより耕作放棄地の解消及び有効活用を図っている。

また、本地区は県内最大級のコスモス畑を目指しており、多数の新聞掲載やテレビ放映など、メディアを通じた広報活動にも力を入れている。



【児童によるコスモスの種まき】



【コスモス畑に立ち寄る人々】

いっばん しゃだん ほうじん まつなが
一般社団法人 松永あんじょうしょう会(福井県小浜市)

＜営農組織や土地改良区と三位一体で地域活性化を目指す保全活動＞

協定面積:150ha
構成員: 農業者255人、非農業者750人

本地区は、周囲を山々に囲まれた清流松永川や多数の文化財など自然豊かな田園地域で、本制度の創設時からほ場整備地区で組織化し、農村環境の保全や農業振興など地域の活性化を図るために法人化し、営農組織と土地改良区と三位一体で地域運営体制を構築している。

代表的な取り組みとして、営農組織の退職者で構成された「草刈り隊」が、遊休農地の草刈りを実施し将来的に営農組織が農地を活用できるようなバックアップ体制が確立されている。

また、遊休農地を活用した市民農園「ふれあい農園」では、園児や小学生による芋掘り収穫の農業体験が実施され、地域の農業に触れる機会が与えられ、教育現場から喜ばれている。



【定年退職者による草刈り隊】



【ふれあい農園での芋掘り体験】

たかやなぎ

高柳農業振興会(新潟県柏崎市)

<多業(マルチワーク)を組み合わせた未来につなぐ人材の育成・定着の仕組みづくり>

協定面積: 田 178.2ha(急傾斜111.6ha、緩傾斜等66.6ha)
協定参加者: 農業者157名、農業法人2、合同会社1、任意組織5

集落の高齢化や農業者の減少が進み、耕作放棄地の増加が懸念される中、平成12年度から旧高柳町内の19集落それぞれが集落協定を締結し、中山間地域等直接支払制度を実施しており、平成27年度から、この19集落が広域協定を締結し、農業生産活動等を維持するための体制を構築している。

また、「棚田地域振興活動加算措置」を活用し、新規就農者がオペレータを担うドローンを使った農薬散布作業の省力化や、狩猟免許取得支援による獣害対策の担い手確保、古民家改修による新たな農家民宿の開業支援を行っていることに加え、「集落機能強化加算措置」を活用し、県外から農業研修生2名を受入れている。

このほか、農業研修生や就農希望者の確保・定着のため、集落協定事務局が、新規就農者、移住希望者、里親農家及び行政と連携して、多業(マルチワーク)による集落への定着に向けたネットワーク構築に取り組んでいる。



【ドローンを操作する新規就農者】



【新規就農者等を交えた検討会】

あけび

明日集落協定(富山県黒部市)

<条件不利地で栽培した「そば」を活用した交流促進と共同活動を通じた地域の話し合い>

協定面積: 田 4.1ha(急傾斜1.5ha、緩傾斜2.6ha)
協定参加者: 農業者8名、農業法人1

集落の農業者の高齢化や担い手の減少に加えて、特にサルによる被害が増加する中、平成13年度から中山間地域等直接支払制度を実施している。担い手への農地の集積による耕作放棄地発生防止、共同活動による水路・農道や周辺林地の草刈りのほか、畦畔に防草シートを張り、草刈り作業の労力軽減を図り、農業生産活動等を維持するための体制を構築している。

また、日頃からの話し合いにより、電気柵の設置・撤去作業を集落の行事に位置づけ、集落の約8割の世帯が作業に参加して獣害対策に取り組んでいる。

このほか、協定農用地の最上部で栽培した「そば」の販売や、その「そば」を使って毎冬開催する「そば収穫祭」で集落の世代間交流等に取り組んでいる。



【電気柵の設置】



【そば収穫祭】

おとまりまち
大泊町中山間事業組合(石川県七尾市)

<海と山と棚田の集落から生まれる人のつながり>

協定面積: 田 23.4ha(急傾斜23.4ha)
協定参加者: 農業者16名、非農業者16名、任意組織3

海沿いにある集落の少子高齢化の進行に伴い、将来の農業の継続に危機感を感じ、平成12年度から中山間地域等直接支払制度を実施している。農地が集落の高台に広がり農地の保全が集落の安全に直結するため、近年は、農村ボランティアや青年漁師等による除草作業等の耕作放棄地発生防止や、集落ぐるみで水路の泥上げなど共同活動を実施し、農業生産活動等を維持するための体制を構築している。

また、協定農用地で生産した米を「大泊なずみ米」としてブランド化し、「能越自動車道」のパーキングエリア内の直売所での販売等により、地域の所得向上に取り組んでいる。

このほか、「棚田地域振興活動加算措置」を活用して、菜の花の植栽による景観保全、小中学生等の農業体験、空き家を活用した移住・定住の促進、棚田で作ったもち米を原料にした「かき餅」等の加工品を開発し、集落内で毎月開催する朝市で販売している。



【農村ボランティア】



【農業体験】

あんようじ
安養寺農業活性化組合集落協定(福井県越前市)

そう
<地域の宝「さぎ草」の保全活動を通して郷土の誇りを次世代へ継承>

協定面積: 田 17.1ha(急傾斜17.1ha)
協定参加者: 農業者64名、非農業者15名、農業法人2、土地改良区1

集落の農業者の高齢化に伴う担い手不足、獣害被害が拡大していることから、平成12年度から中山間地域等直接支払制度を実施している。担い手への農地の集積による耕作放棄地発生防止や、金網柵の設置による獣害対策、集落ぐるみで農道等の草刈りなど共同活動を実施し、農業生産活動等を維持するための体制を構築している。

また、集落の希少植物「さぎ草」を地域の宝として保護・再生に取り組み、「さぎ草」が自生できる美しい自然環境に配慮の下、協定農用地で栽培し、特別栽培コシヒカリ「さぎ草米」としてブランド化している。

このほか市のイベントで「さぎ草米」を加工した「ポン菓子」のPR配布や、「さぎ草」が開花する毎年8月に開催される「さぎ草展」において、来訪する県内外の都市住民に「さぎ草米」のPR販売を行うとともに、市内の飲食店・小売店への販売拡大を展開し、地域の所得向上に取り組んでいる。



そう
【さぎ草】



そう
【さぎ草米】